

## II 調査結果の概要

### 1 総括

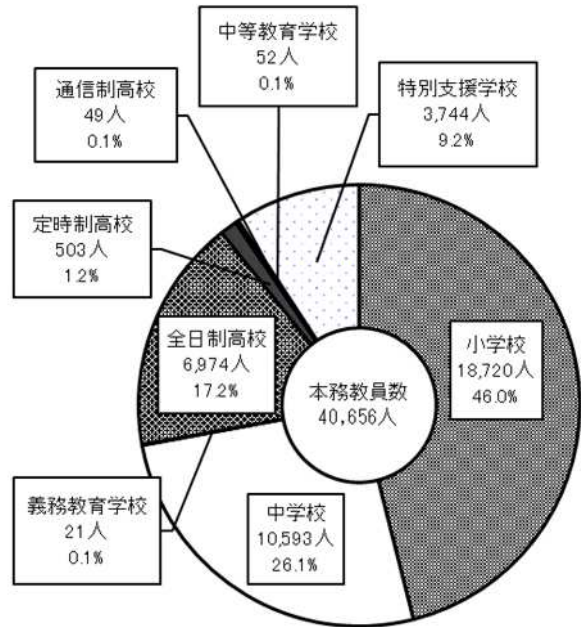
令和4年10月1日現在の県内公立学校の本務教員数は40,656人でした。

学校種別教員数をみると、小学校が最も多く、教員数全体の46.0%を占めています。以下、中学校が26.1%、全日制高等学校が17.2%、特別支援学校が9.2%、定時制高等学校が1.2%、義務教育学校、通信制高等学校及び中等教育学校が0.1%でした。

男女別構成比をみると、男性教員の割合が最も高いのは高等学校（全日制、定時制及び通信制合計）で67.4%、女性教員の割合が最も高いのは小学校で62.1%でした。

年齢構成をみると、全ての学校種で30歳代の割合が最も高くなりました。中等教育学校が50.0%と割合が最も高く、次いで義務教育学校が38.1%、特別支援学校が34.9%でした。

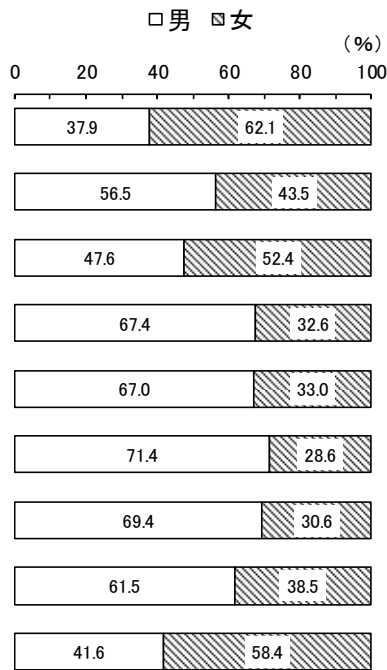
図1 学校種別教員数



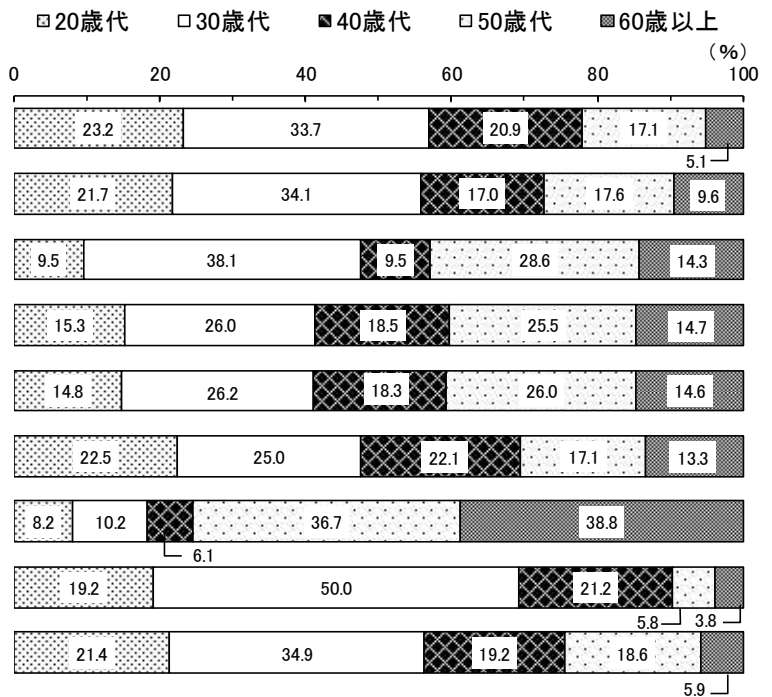
第1表 本務教員数、平均年齢及び男女比

区分		本務教員数(人)			平均年齢(歳)			男女比(%)		
		令和4年度	令和元年度	増減	令和4年度	令和元年度	増減	令和4年度	令和元年度	増減
合計	計	40,656	38,264	2,392	41.1	41.9	△0.8	100.0	100.0	-
	男	19,753	19,065	688	41.7	43.0	△1.3	48.6	49.8	△1.2
	女	20,903	19,199	1,704	40.5	40.8	△0.3	51.4	50.2	1.2
小学校	計	18,720	17,336	1,384	39.8	40.1	△0.3	100.0	100.0	-
	男	7,100	6,701	399	39.5	40.6	△1.1	37.9	38.7	△0.8
	女	11,620	10,635	985	40.0	39.9	0.1	62.1	61.3	0.8
中学校	計	10,593	10,047	546	40.9	42.4	△1.5	100.0	100.0	-
	男	5,984	5,755	229	41.3	42.9	△1.6	56.5	57.3	△0.8
	女	4,609	4,292	317	40.5	41.7	△1.2	43.5	42.7	0.8
義務教育学校	計	21	21	-	45.9	44.2	1.7	100.0	100	-
	男	10	10	-	49.4	49.0	0.4	47.6	48	-
	女	11	11	-	42.8	39.8	3.0	52.4	52	-
高等学校計	計	7,526	7,592	△66	44.9	45.4	△0.5	100.0	100.0	-
	男	5,069	5,198	△129	45.7	46.4	△0.7	67.4	68.5	△1.1
	女	2,457	2,394	63	43.2	43.4	△0.2	32.6	31.5	1.1
全日制	計	6,974	7,055	△81	45.0	45.6	△0.6	100.0	100.0	-
	男	4,676	4,808	△132	45.8	46.5	△0.7	67.0	68.2	△1.2
	女	2,298	2,247	51	43.3	43.5	△0.2	33.0	31.8	1.2
定時制	計	503	485	18	42.4	43.0	△0.6	100.0	100.0	-
	男	359	352	7	43.2	43.7	△0.5	71.4	72.6	△1.2
	女	144	133	11	40.7	41.4	△0.7	28.6	27.4	1.2
通信制	計	49	52	△3	53.3	53.8	△0.5	100.0	100.0	-
	男	34	38	△4	53.6	55.0	△1.4	69.4	73.1	△3.7
	女	15	14	1	52.8	50.6	2.2	30.6	26.9	3.7
中等教育学校	計	52	21	31	37.6	38.7	△1.1	100.0	100	-
	男	32	12	20	37.0	37.6	△0.6	61.5	57	4.4
	女	20	9	11	38.6	40.3	△1.7	38.5	43	△4.4
特別支援学校	計	3,744	3,247	497	40.3	41.1	△0.8	100.0	100.0	-
	男	1,558	1,389	169	40.6	41.9	△1.3	41.6	42.8	△1.2
	女	2,186	1,858	328	40.1	40.4	△0.3	58.4	57.2	1.2

第2図 学校種別教員の男女比



第3図 学校種別教員の年齢構成

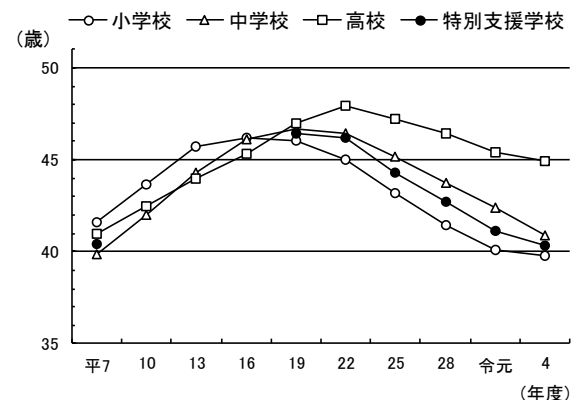


2 平均年齢の推移

小学校、中学校、高等学校（全日制、定時制及び通信制の合計。以下同じ）及び特別支援学校について、教員の平均年齢をみると、小学校の39.8歳が最も低く、次いで特別支援学校の40.3歳、中学校で40.9歳、高等学校で44.9歳でした。

令和4年度と令和元年度の教員の平均年齢を比較すると、全ての学校種で平均年齢が低下しました。また、平成22年度以降は平均年齢の低下傾向が続いています。

第4図 学校種別教員の平均年齢の推移



第2表 学校種別教員の平均年齢の推移

(単位:歳)

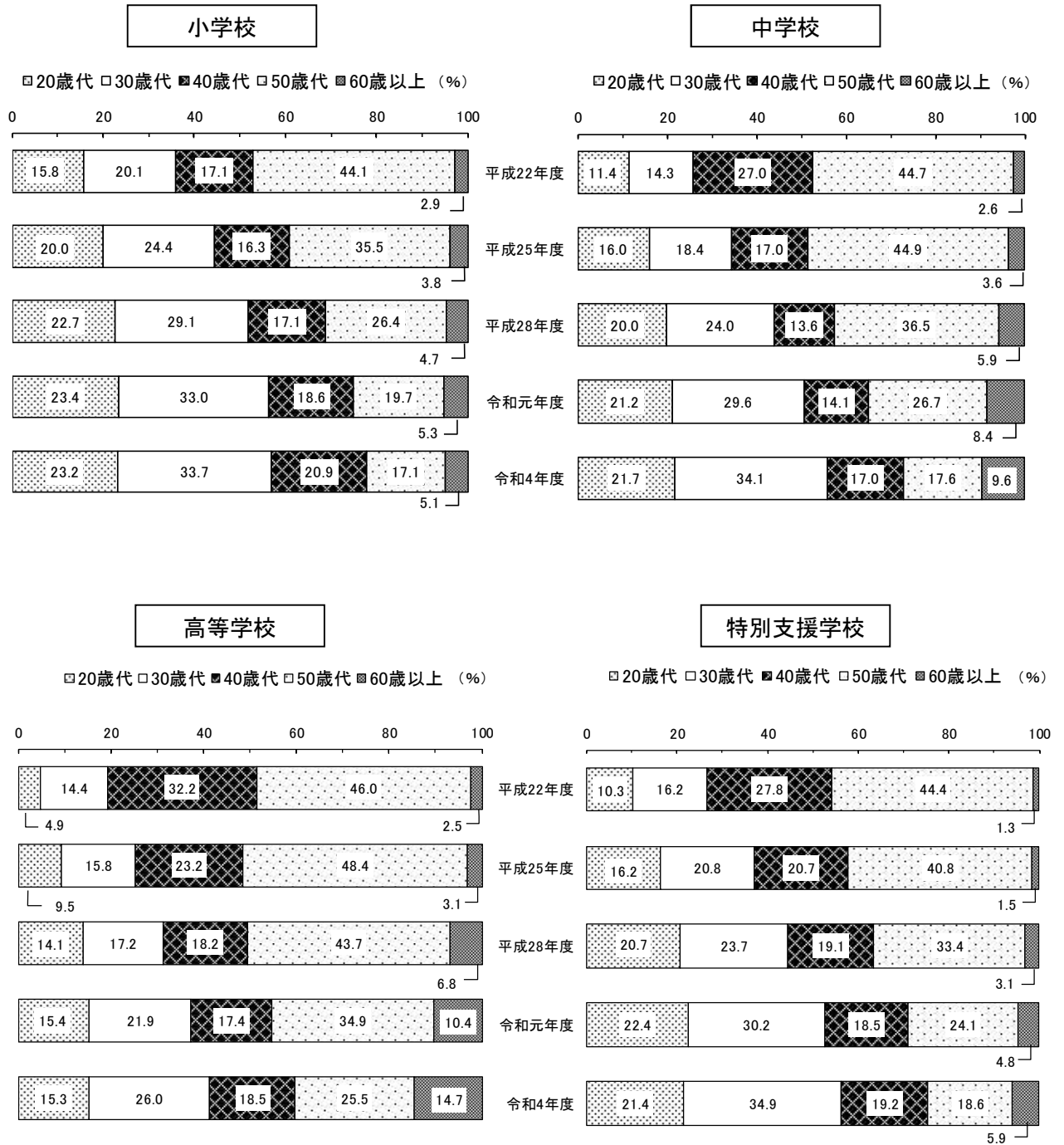
年度	小学校			中学校			高校(全・定・通)			特別支援学校		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成 7	42.6	41.0	41.6	40.7	38.5	39.9	41.6	39.0	41.0	41.5	39.4	40.4
10	44.3	43.4	43.7	42.7	40.8	42.0	43.1	40.4	42.5	...	...	...
13	46.1	45.5	45.7	45.1	43.0	44.3	44.7	41.9	44.0	...	...	...
16	46.5	46.1	46.2	47.0	44.5	46.1	46.2	42.7	45.3	...	...	...
19	46.7	45.6	46.0	47.9	44.7	46.7	48.0	44.2	47.0	47.7	45.2	46.4
22	45.4	44.7	45.0	47.9	44.3	46.4	49.0	45.0	47.9	47.8	44.9	46.2
25	43.9	42.8	43.2	46.5	43.5	45.2	48.2	44.9	47.2	46.2	42.9	44.3
28	42.2	40.9	41.4	44.6	42.6	43.8	47.3	44.2	46.4	44.4	41.5	42.7
令和 元	40.6	39.9	40.1	42.9	41.7	42.4	46.4	43.4	45.4	41.9	40.4	41.1
令和 4	39.5	40.0	39.8	41.3	40.5	40.9	45.7	43.2	44.9	40.6	40.1	40.3
対令和元年度	△1.1	0.1	△0.3	△1.6	△1.2	△1.5	△0.7	△0.2	△0.5	△1.3	△0.3	△0.8

※ 平成10、13及び16年度の特別支援学校については公表されていない。

### 3 年齢構成の推移

平成22年度からの年齢構成の推移をみると、いずれの学校種でも、20歳代の割合が落ち着いてきている一方、30歳代の割合は引き続き増加傾向にあります。小・中学校において、50歳代の割合が大きく減少しています。中学校、高等学校（全日制、定時制及び通信制の合計）、及び特別支援学校では、60歳以上の割合が増加傾向にあります。

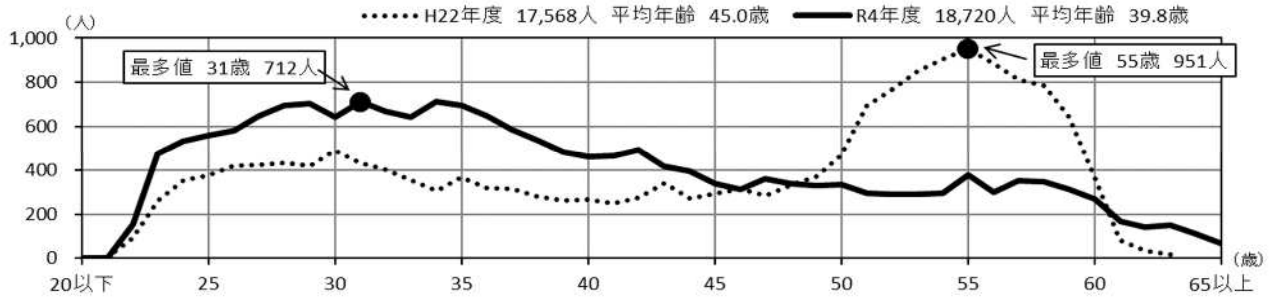
第5図 年齢構成の推移



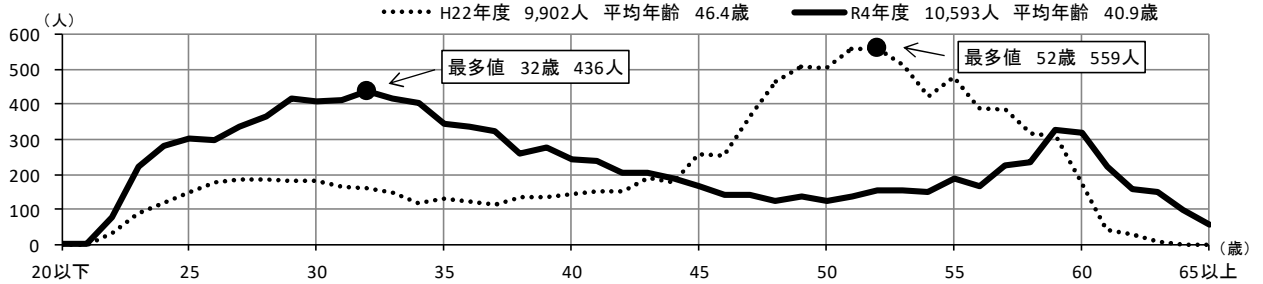
平成22年度と令和4年度を年齢別に比較すると、平成22年度は、いずれの学校種においても50歳代に人数のピークがありました。令和4年度には、小学校、中学校、特別支援学校で人数のピークが30歳代前半に移っており、世代交代が大きく進みました。

第6図 年齢別教員数の推移（平成22年度との比較）

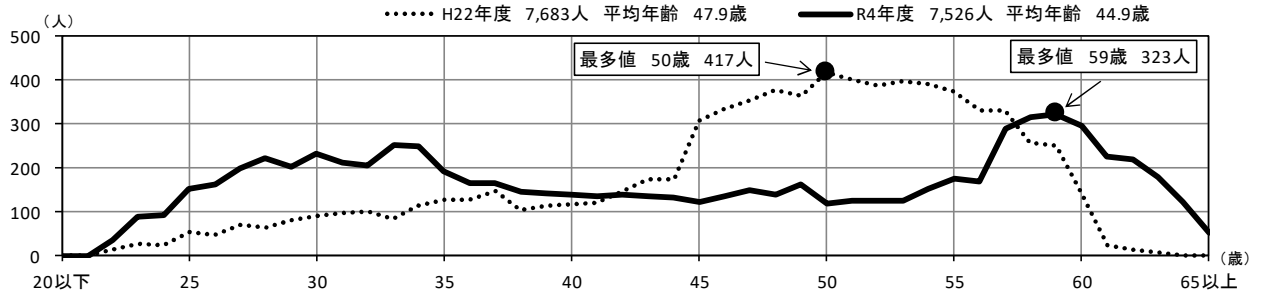
小学校



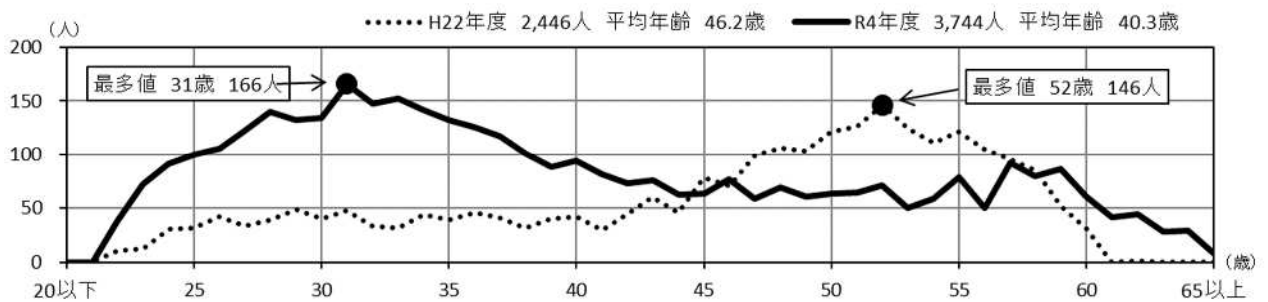
中学校



高等学校



特別支援学校



#### 4 地域別市町村立小・中学校の状況

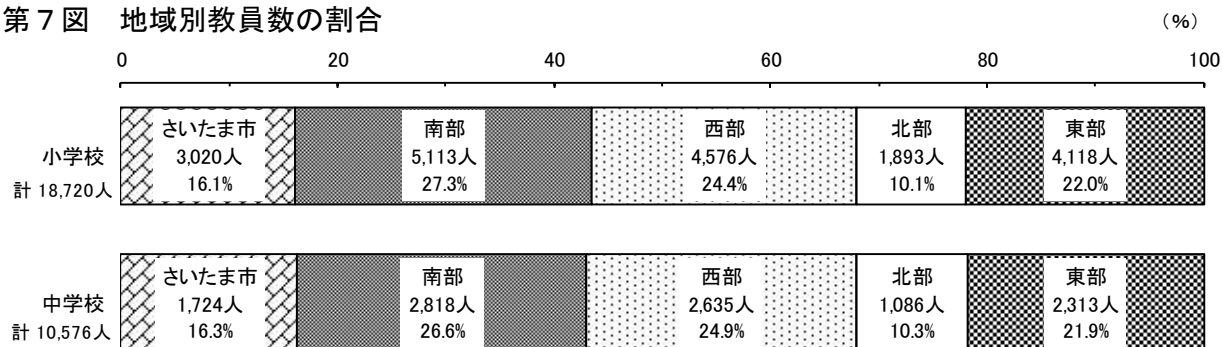
地域別に教員数をみると、最も人数が多いのは、小学校が南部教育事務所管内で全体の27.3%、中学校でも南部教育事務所管内で26.6%でした。

地域別に教員の年齢構成をみると、小学校及び中学校で、どの地域でも30歳代の割合が最も高く、いずれも30%を超えています。

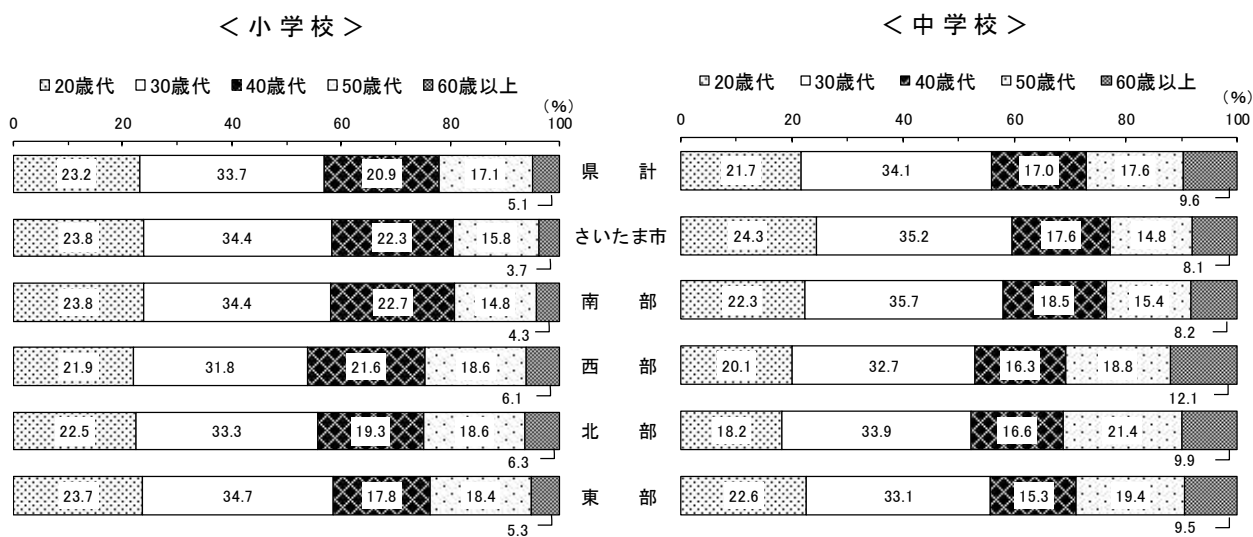
教員の平均年齢が最も低いのは、小学校がさいたま市で39.2歳、中学校でもさいたま市で39.7歳でした。最も高いのは、小学校が西部教育事務所管内と北部教育事務所管内で40.5歳、中学校でも西部教育事務所管内で42.1歳でした。平均年齢の最高と最低の差は、小学校が1.3歳、中学校が2.4歳でした。

※ 市町村の地域については、8ページを参照してください。

第7図 地域別教員数の割合



第8図 地域別教員の年齢構成



第9図 地域別教員の平均年齢

